



未来教育セミナーにて研究成果を報告

本センターは、令和6年8月21日(水)、公益財団法人教科書研究センター（以下教科書研究センター）と国立大学法人大阪教育大学の共催により開催された、未来教育セミナー『英語の学習者用デジタル教科書（以下デジタル教科書）の活用に関する調査研究成果発表会』にて、「小学校外国語教育におけるデジタル教科書を活用した授業づくりに関する研究—その実態把握と分析に基づいて—」と題して、研究成果を発表しました。対面45名、オンライン105名の教育関係者の参加があった本セミナーでは、教科書研究センターから調査研究の委託を受けた本学を含む、4つの国立教員養成大学が、成果や課題について報告し合いました。

2024.08.21(水) 未来教育セミナー
英語の学習者用デジタル教科書を活用した
授業づくりと教員研修モデル
～4教育大学による実践研究の発表～



【質疑応答・意見交換の様子】

今回、報告した内容は、1年次に実施したアンケート調査（附属・公立小学校44校(A市13校、B市30校、その他1校)の教員57名と児童1,767名を対象)の結果と協力校における試行授業からうかがえるデジタル教科書の使用の現状、そして可能性と課題についてです。その主なものは次の通りです。(発表より一部抜粋)

【児童の視点から】

☐ デジタル教科書使用への児童の好感度は高い。

☐ 外国語の学習に好意的ではない児童が、デジタル教科書の使用を通じて、外国語の学習に前向きになる可能性がある。



[課題] 児童の習熟度や個性等に応じたデジタル教科書の活用や教師の支援のあり方をさらに追究する必要性がある。

【指導者の視点から】

■ デジタル教科書が使用できる環境が整っている場合でも、実際に使用していない状況がある。

■ デジタル教科書使用のねらい、方法等が教師により異なる。

[課題] デジタル教科書を活用した授業の在り方に関する教員研修等の必要がある。また、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を主眼にした授業観への変革の必要がある。

【授業づくりの視点から】

☐ デジタル教科書を使用することで、自分のペースやタイミングで個別の学びと協働的な学びを行ったり来たりしながら学習を進める児童の姿が見られた。このことから、課題解決に向けた、児童の主体的な学びを促す可能性が示唆された。

[課題] デジタル教科書の使用を通して、個別の学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業について、より具体的な在り方を追究する必要性がある。

以上の課題等を踏まえ、デジタル教科書を活用した授業の在り方について、協力校とともにさらに追求していきたいと考えています。

(特命准教授 佐藤 美智子)

小学校とグローバル教育コースの学生との異文化交流

過去2年間、鳴門教育大学大学院のグローバル教育コースで学ぶ留学生が、四国各地の小学校を訪問し、英語の授業に参加してきました。今年度はこの活動をさらに増やしました。小学生たちは他国の人々や文化と出会い、学ぶことにとても熱心で、グローバル教育コースの学生たちも小学校を訪問し、児童たちと触れ合うことをとても楽しんでいます。



【小学校訪問の様子】



【小学生と触れ合う様子】

このプロジェクトを始めるきっかけは、高知県で土佐山学舎が行っている活動を見たことにより【小学校訪問の様子】です。そこでは、毎月留学生が訪問し、それがカリキュラムの一部となっています。土佐山学舎の素晴らしい先生方のおかげで、この授業は、参加者全員にとって、とてもインタラクティブで楽しいものになっています。私の目標は、他の学校にも同じようなプロジェクトを小規模ながら始めてもらうことにあり、これまでも好評を得ています。4月以降、香川県の直島小学校、徳島県の岩倉小学校、高知県の土佐山学舎、そして中学校を訪問しました。

(准教授 ジェラード・マーシェソ)



夏期研修 学習者用デジタル教科書などICTの活用を通して

令和6年8月9日(金)、阿南市の外国語部会夏期研修会にお招きいただきました。ご参加いただいたのは、担任、専科、授業には直接関わっていないけれど外国語教育の担当者といった様々なお立場の先生方でした。長時間の研修であるにもかかわらず、皆様のご協力により、なごやかな雰囲気で行うことができました。

研修は、Formsを用いた評価の見取りやアンケートの体験、学習者用デジタル教科書を用いたリスニング、先進的な取り組みをしている授業のご紹介など、言語活動の充実に向けたICTの活用方法を中心に進めさせていただきました。また、以前のようなカードを用いた活動も体験していただきました。

一人一台端末の普及により児童の学び方には大きな変化が起こっています。外国語教育においても、今年度から学習者用デジタル教科書が本格的に導入されました。「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るために、タブレット端末はたいへん有効であると感じています。特に「聞く・話す」ことが基本である外国語教育では、自分で英語の速度を変えたり何度も聞き直したりすることで、「意味がわかった」「伝えたい英語が言えるようになった」といった児童の自信につながる場面が数多く見られます。本研修でもいくつかの授業場面をご覧いただき、児童の変化の様子を実感していただけたのではないかと思います。

時代の変化とともにICTの活用は、今後ますます本格化することは明らかです。ただICTは万能ではなく、指導者が明確な目的意識をもって活用してこそ有効に働くものだと考えます。「主体的・対話的」とはどのように学ぶ姿なのか、「深い学び」とはどういう学びなのか、児童の資質能力の育成のためにICTが果たす役割を考え、取り組みを進めていくことが重要だと感じております。

参加された先生方からは「学習者用デジタル教科書を使って、子どもたちの自信を高めてよりよい授業づくりに活用したい」「ICTを効果的に使うことで、個のニーズに応じた学習ができ、子どもたちが自信をもって言語活動に取り組めることがわかった」「個別最適な学びと協働的な学び、それぞれのよさを取り入れながら学習を進めていくことの大切さが、具体的な授業の例などからよくわかった」などの感想をいただきました。

この度の研修が、先生方の授業に少しでもお役に立つことがあれば、これほど嬉しいことはありません。

(コーディネーター 竹内 陽子)



【夏期研修の様子】

